

自治会の デジタル活用の 手引き

目次

1.はじめに	1
2.デジタル活用でできること	1
3.導入までの流れ	2～4
4.導入例	5

はじめに

「回覧板を回す人が大変...」

「若い世代に情報が届きにくい...」

「急ぎのお知らせをすぐ伝えたい...」

そんなときに役立つのが、**デジタルの活用**です



デジタルを活用すれば、場所や時間を選ばず、手軽に情報を受け取れます。定例の回覧板としてだけでなく、急な町内会等からの情報発信にも役立てられます。その結果、これまで情報が届きにくかった人や、時間の都合で参加できなかった世代も参加しやすくなります。

紙の回覧板をすぐやめる必要はありません。
より良い自治会化運営のために、できることから始めてみませんか。

※本手引きで紹介するツールは一例であり、これらの活用を市が必ずしも推奨するものではありません。

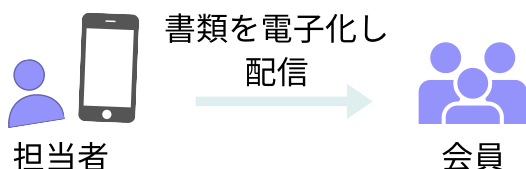
既に活用されている又はこれから活用する別のツール等の活用を妨げるものではありませんので、予めご了承ください。

デジタル活用でできること

デジタル活用とは

本手引きでは、スマートフォンやパソコンなどのデジタル機器やサービスを利用して、情報共有や連絡、事務作業などを便利で効率的に行うことを**デジタル活用**と言います。

回覧板の情報を発信



イベントや訓練などの呼びかけ



警戒情報や災害をリアルタイム発信



他にも、、、

- ・ イベントの様子を発信
 - ・ 行事当日にお知らせ通知
 - ・ 役員間の情報共有
 - ・ 会費の集金
- など様々な活用方法があります

メリット

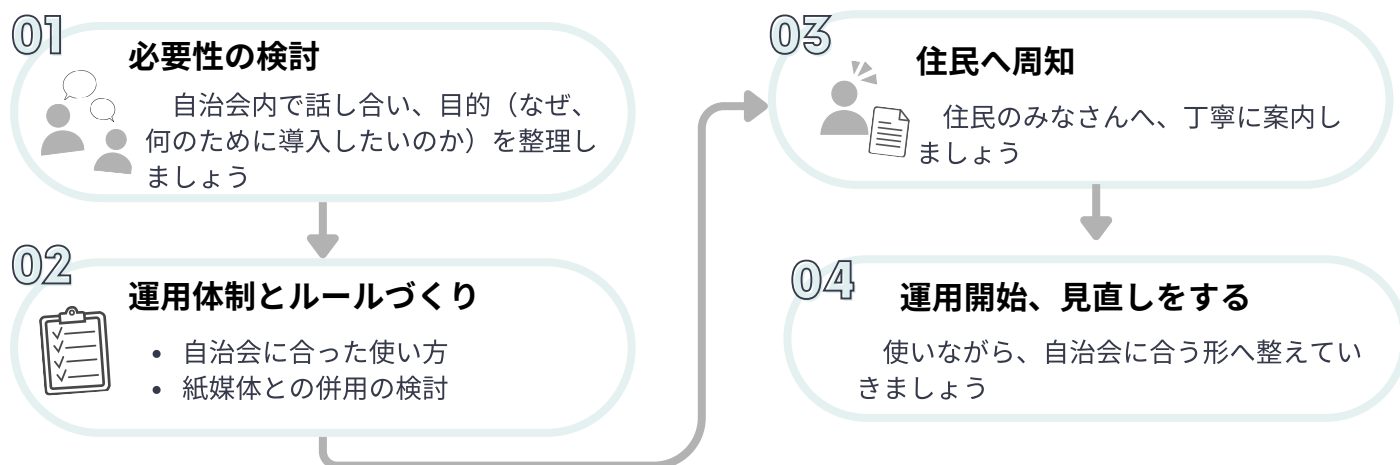
- ・ いつでもどこでも、メッセージや写真のやりとりが可能
- ・ 回覧板を見ない世帯へも、情報を伝えやすい
- ・ 過去の内容を自分で保存できる

デメリット

- ・ スマホ等の通信機器を持っていない世帯には届けられない
- ・ 紙との併用により、自治会の負担が増える場合がある
- ・ ツール（手段）によっては有料

導入までの流れ

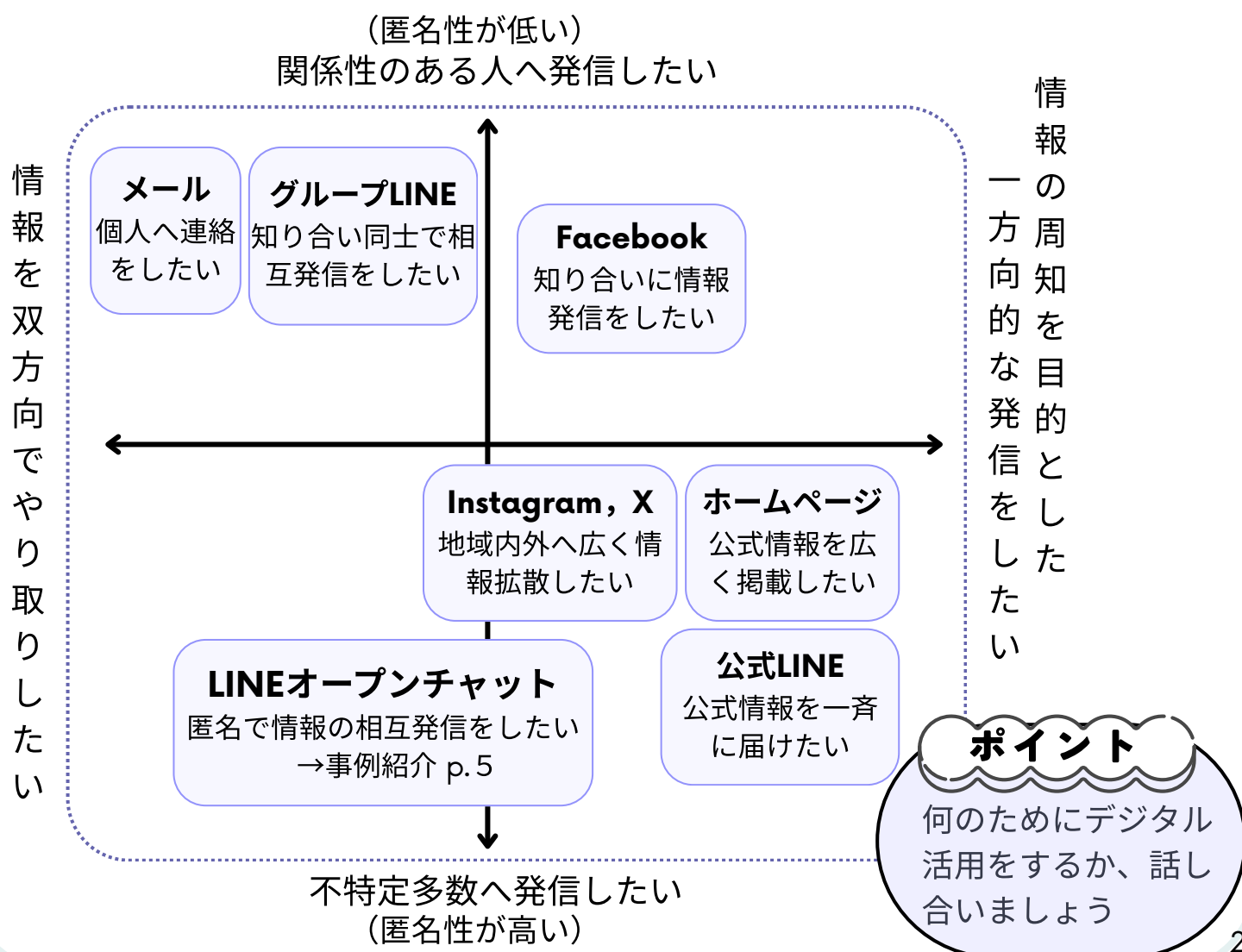
導入までには、大まかに以下の4ステップがあります。



01 必要性の検討

まずは、地域の現状・課題を確認し、**解決したいことを目的**に定め、どのようにデジタルを活用するかを考えましょう。（目的例：役員負担の軽減、配布漏れ防止、若い世代への周知）

その後、目的に応じてツールを選びましょう。



導入までの流れ

02

運用体制とルールづくり

運用体制づくり

☑ 役割分担をする

役割例



役員だけで難しい場合は、地域の中でサポーターを募るのもよいでしょう。

☑ 役員間での運用から始める

運用イメージをつかむため、まずは役員同士で実際に使ってみるのもよいでしょう。

☑ 紙媒体との併用



初めから、紙媒体の廃止を前提にするのではなく、デジタル導入後、会員の意向なども踏まえて検討しましょう。

ポイント

担当者を一人にせず、
できる範囲で分担しましょう



継続できる体制に！

ルールづくり

☑ 目的に沿ってルールをつくる

ルールの例

- ・ 投稿時間
- ・ 発信者の範囲
- ・ 個人情報の取り扱い
- ・ 誹謗中傷があった場合の対応

目的に沿ったルールを作りましょう。

☑ 個人情報のルール

- ・ 個人を特定できる情報を載せない
(例：氏名、住所、メールアドレス等)
- ・ 個人が写る写真を利用する際は、
本人の同意を得る or 写真をぼかす



※同意の取り方

イベント時に、「広報用にイベントの様子を撮影します。広報紙や電子回覧板への掲載を望まない方は、事務局へお申し出ください。」と呼びかける等の方法があります。

☑ 初期設定

- ・ 決めたルールに沿って初期設定をしましょう。(例：アカウントの管理者を自治会役員に設定する)
- ・ ルールはいつでも誰でも確認できるようにしましょう。

導入までの流れ

03

住民への周知

チラシや自治会行事の場で、デジタル活用について住民へ周知します。

- ☑ 「導入する目的」
- ☑ 「利用する上での注意点」
- ☑ 「使い方」

などを丁寧に説明しましょう。

- ・ 導入当初は広がらなくても、継続して周知することが大切です。
- ・ 導入への意向確認、紙の回覧板との併用の有無など、事前にアンケートを取って計画的に進めることで、スムーズな導入につながる場合もあります。

〇〇自治会 電子回覧板の お知らせ

自治会の情報を「LINEオープンチャット」で発信します

【掲載内容】

自治会だより、クマ情報、緊急連絡等事務局からの発信をメインに行います。

【LINEとの違い】

匿名で参加が可能です。

【チャットへの参加方法】

- ①QRコードを読み込む
- ②「新しいプロフィールで参加」を押す
- ③プロフィール（ニックネーム）を入力



(例：LINEオープンチャットの場合)

ポイント

デジタル活用にネガティブな方がいたら...

- 「機能」ではなく、「困りごと」を共有
例) 回覧板が遅れて届いたり、雪の日に届けに行くのは面倒ですよね
- 合わなかったら、いつでもやめてOKに。
- 見るだけ、返事はいらぬしくみに。

04

運用開始、見直しをする

- ・ 実際に回覧やお知らせを配信
↓
- ・ 住民同士で感想を出し合い、使い方を少しずつ改善
↓
- ・ 慣れてきたら、様々な連絡や行事にも活用してみましょう！

導入事例

自治会加入世帯

約330世帯 22班 役員18人

地域の特徴

小学生がいる世帯は17世帯で、少子高齢化が進んでいる。人口は減少傾向。

導入前の状況

回覧板は紙媒体。回覧板が回ってくるまでにリアルタイムでの情報共有ができない。

導入の目的

災害やクマ出没情報など**緊急性を要する情報**をすぐに発信したい。

導入したツール

LINEオープンチャット

導入の流れ

自治会長と
役員による検討

- ・ルール決め
- ・オープンチャットの
基本設定
- ・役員による試験
運用

区長だよりで
周知

まずは「導入を検討中」
という内容を周知

運用
開始

随時
周知

「開設したのでぜひ
参加してください」
という内容を周知



【こんな使い方をしています】

- ・イベントの案内
- ・イベントの様子を即時発信（例：おみこしや運動会）
- ・クマ出没情報、詐欺・不審者情報などの注意喚起
- ・区長(自治会長)だよりの掲載

【気を付けているポイント】

- ・なるべく感情等や勝手な思いは入れないようにしている。



【LINEオープンチャットならではの悩み】

- ・基本は閲覧のみとしているが、稀に届いた参加者からのコメントへ返事をするか迷うときがある。

→回答が明確なものは返信し、返信を迷うものはリアクション
機能で反応するか、返信せず見守る形でもOK！



実際の画面

【今後】

330世帯中、現在の参加者は45人（目標は1世帯1人参加）と、まだまだ浸透が足りない状況のため、今後も周知を続けていく。

毎月の区長だよりで、
LINEオープンチャットを周知
↓
参加人数が徐々に増加中！